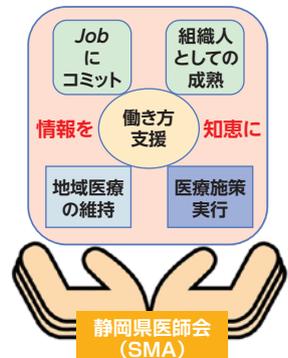


勤務医委員会 NEWS (静岡県医師会)

Vol. 21 (2025年3月号)

静岡県の医療施設（病院、診療所）・介護施設（介護医療院、介護老人保健施設等）に従事されている先生方、こんにちは。静岡県医師会勤務医部です。

前回の勤務医委員会NEWSの発行から1年余り経過してしまいましたが、今回は、令和6（2024）年度に設置された勤務医部のご紹介と1年間の取り組み状況についてご報告したいと思います。各事業の経緯や説明なども加えましたので、ご参考になれば幸いです。



<勤務医部の設置と運営状況>

昨年6月の役員改選と併せて行われた組織の見直しにより、静岡県医師会に「勤務医部」が設置されました。これまで、勤務医に関する取り組みは「地域医療部」が担当してきましたが、今後は、「地域医療部」から暖簾分けした「勤務医部」が担当します。

ちなみに、令和7（2025）年1月15日時点における静岡県医師会の会員数は4,724名で、そのうち病院・診療所の開設者・管理者であるA会員（それに準ずる者を含む）が2,303名、それ以外のB会員（A・C会員以外の会員）・C会員（研修医）が合わせて2,421名と、後者の方が多くなっています。なお、B会員の多くは病院・診療所の勤務医ですが、リタイアされた先生方（自宅会員）なども含まれます。

勤務医部は、齋藤副会長をトップに、小野、佐藤、鈴木（昌）、竹内の各理事（50音順）から構成され、竹内が主任を務めています。なお、佐藤理事と鈴木理事は静岡県病院協会から、竹内は浜松医科大学からの推薦理事です。年約5回の部会は定例理事会に合わせて開催しますが、その他の打合せはオンラインで行うなど、効率的な運営を心がけています。現時点で中部地域選出の担当理事は不在ですが、役員以外の先生方からも積極的なご協力をお願いいたします。

さて、ここからは令和6（2024）年度の取り組みをご報告していきます。

表1 静岡県医師会の業務分担

令和6年6月15日まで	令和6年6月16日から
1. 総務部	1. 総務部
2. 医療政策部	2. 医療政策部
3. 医療安全部	3. 医療安全部
4. 医療保険部	4. 医療保険部
5. <u>地域医療部</u>	5. <u>地域医療部</u>
6. 医療介護連携政策部	6. <u>勤務医部</u>
7. 公衆衛生部	7. 医療介護連携政策部
8. 母子保健・学校保健部	8. 公衆衛生部
9. 救急医療・災害医療部	9. 母子保健・学校保健部
10. 産業保健・スポーツ医学部	10. 救急医療・災害医療部
11. 学術部	11. 産業保健・スポーツ医学部
12. 広報部	12. 学術部
	13. 広報部

<勤務医部による令和6（2024）年度の取り組み>

(1) 臨床研修医向け研修事業

○ Welcome Seminar in Shizuoka 2024 (5/11, 6/29, 7/20)

県内の臨床研修医を対象に、医師臨床研修指導ガイドライン(2020年度版)の<必修分野>に盛り込まれた「基本的な診療において必要な分野・領域等に関する研修」について、オムニバス形式による講演（全3回・計6項目）を提供しています。

表2 Welcome Seminar in Shizuoka 2024

開催日	区分	内容・講師
5月11日 (土)	メッセージ	静岡県からのビデオメッセージ 静岡県副知事 森 貴志 氏
	研修医へのメッセージ	「研修医へのメッセージ」 静岡県医師会 副会長 齋藤 昌一
	教育セミナーⅠ	「緩和ケア: 医師にできること」 総合病院聖隷三方原病院 副院長 森田 達也 先生
	教育セミナーⅡ	「MSWが行う社会復帰支援」 静岡県ソーシャルワーカー協会 会長 中村 敬 氏
6月29日 (土)	メッセージ	静岡県病院協会からのビデオメッセージ 静岡県病院協会 会長 毛利 博 先生
	研修医へのメッセージ	「人口減少・超高齢社会で求められる医師像とは」 静岡県医師会 理事 竹内 浩視
	教育セミナーⅠ	「若手医師が安心して研修するために ～心理的安全性とピアサポート～」 浜松医科大学医学部総合人間科学講座 法学教授 大磯 義一郎 先生
	教育セミナーⅡ	「小児虐待」 浜松医療センター 小児科部長 宮本 健 先生
7月20日 (土)	メッセージ	静岡県医師会からのビデオメッセージ 静岡県医師会 会長 加陽 直実
	研修医へのメッセージ	「研修医へのメッセージ ～先輩医師から～」 聖隷浜松病院 救急・集中治療科 徳山 仁美 先生
	教育セミナーⅠ	「感染症診療の原則」 静岡県立静岡がんセンター 感染症内科部長 倉井 華子 先生
	教育セミナーⅡ	「ACPで始める患者中心の医療」 浜松医科大学医学部地域家庭医療学講座 特任教授 井上 真智子 先生

今年度は、すべての講師を県内で従事されている先生方をお願いしました。また、各回の講演前に県行政・医療関係団体からメッセージをいただき、本県に親しみを持っていただけるようなプログラムとしているほか、web参加も可能なハイブリッド形式とすることで参加しやすい環境を確保しています。

一方、4月からの医師の時間外労働上限規制による影響が懸念されましたが、各回とも県内全域から多くの臨床研修医の先生方が参加され、講演内容も大変好評でした。ご多忙の中、ご講演いただいた先生方に改めてお礼申し上げます。



「研修医へのメッセージ」
静岡県医師会副会長 齋藤昌一先生

○ 屋根瓦塾 in Shizuoka 2024 (東部：1/25, 中部：2/24, 西部：8/18)

Welcome Seminarの「座学」に対して、屋根瓦塾は、ブースラウンド形式により複数の臨床研修病院の指導医の先生方から「実技」指導を受けることができる研修会です。指導される先生方の中には、県内の臨床研修病院で研修修了後、引き続き県内で専門研修を受けている、あるいは指導医となられた先生方もおり、文字通り「屋根瓦」方式による指導体制となっています。



また、今年度は5年ぶりに東部地域での開催が復活し、東部・中部・西部のすべてで開催することができました。ただ、会場によっては参加人数が例年よりも少なく、大変残念に思っています。医師の働き方改革による「労働か自己研鑽か問題」もありますが、県内のトップクラスの指導医の先生方から直

表3 屋根瓦塾 in Shizuoka 2024

開催日・会場	ブース	内容・ブースリーダー
東部 1月25日 (土) 静岡医療 センター	Aブース	「鎮静のABC」 リーダー: 静岡医療センター 副院長・麻酔科部長・集中治療部長 小澤 章子 先生
	Bブース	「中心静脈ライン穿刺」 リーダー: 静岡医療センター 副院長・麻酔科部長・集中治療部長 小澤 章子 先生
	Cブース	「縫合」 リーダー: 沼津市立病院 形成外科部長 中東 和彦 先生
	Dブース	「キャリア形成 グループワーク」 リーダー: 伊東市民病院 臨床研修センター長・総合診療科科長 田中 まゆみ 先生
中部 6月29日 (土) 静岡済生会 総合病院	Aブース	「母体救急・周産期救急」 リーダー: 静岡県立総合病院 産婦人科医長 谷 洋彦 先生
	Bブース	「腹腔鏡手術基本手技」 リーダー: 静岡済生会総合病院 外科医長 川上 次郎 先生
	Cブース	「気道確保(ベーシック・アドバンス)」 リーダー: 静岡市立静岡病院 麻酔科主任科長 玉里 順子 先生
	Dブース	「ショック患者の初期治療」 リーダー: 藤枝市立総合病院 救急科科長 増田 崇光 先生
	Eブース	「神経系救急(脳卒中の初期対応・骨髄針の適応とその使い方)」 リーダー: 焼津市立総合病院 救急室長 金本 忠久 先生
西部 8月18日 (日) 総合病院 聖隷浜松病院	Aブース	「CVC」 リーダー: 浜松医科大学医学部麻酔・蘇生学講座 准教授・附属病院集中治療部 部長 御室 総一郎 先生
	Bブース	「産科救急」 リーダー: 浜松医療センター 産婦人科医長 芹沢 麻里子 先生
	Cブース	「小児救急」 リーダー: 聖隷三方原病院 救急科部長 志賀 一博 先生
	Dブース	「臨床疑問の検索」 リーダー: 浜松医科大学医学部地域家庭医療学講座 特任助教 本田 優希 先生
	Eブース	「救急チームを作ろう! -ノンテクニカルスキルを知っていますか?-」 リーダー: 浜松医科大学医学部附属病院救急部 助教 高橋 善明 先生

接手解きを受けることができる大変貴重な機会ですので、来年度は多くの臨床研修医の先生方に参加いただけるように準備を進めたいと思います。ご多忙の中、ご準備・ご指導いただいた先生方、会場をお貸しいただいた病院の皆様に改めてお礼申し上げますとともに、引き続きご協力をお願い申し上げます。

(2) 医師のキャリア支援事業

○ 静岡県医師バンク事業 (通年)

県内の医療機関で従事することを希望する県内外の医師と医師を募集する県内の医療機関とのマッチングを行い、医師少数県である静岡県の医師確保に寄与することを目的に、令和3(2021)年1月から求人・求職登録を開始しました。

これまで県内就業に至った先生方は、県外の第一線で活躍されていた先生や、パートナーの転勤により家族ぐるみで本県に転居された女性の先生など、様々な背景をお持ちで、就業先は病院、診療所、介護施設、就業形態も常勤もしくは非常勤と、それぞれの事情に応じたマッチング状況となっています。なお、この取り組みは厚生労働大臣の許可を得た職業紹介事業で、求人・求職登録やマッチングに係る面談(対面・オンライン)などに係る費用は成立・不成立を問わず無料です。



静岡県医師バンク 公開中

医師のキャリア支援情報サイト

静岡県医師バンク

静岡県で唯一の医療関連情報サイト
「ふじのくに」につながる

静岡県で働きたい医師・静岡県に関心のある医師の皆様へ

東京に比較的近く、就職が可能な静岡県(ふじのくに)を日本一住みやすい県にするために働いてみませんか。

- 全年代の医師が対象です。スライド登録が可能です。登録料はかかりません。また、個人情報としての登録も可能です。
- 医師のアドバイザーが面接相談に応じます。医師のアドバイザーは、面接(Web)により希望に合った就業先を紹介いたします。
- 豊富な求人情報や医療機関からのメッセージ、静岡県内の医師、静岡県内に関わる情報を提供します。最新の求人情報やWeb配信情報、県内の医療の発展をお知らせします。静岡県で働く医師と静岡県に関心のある医師に各種のキャリアパスを提供いたします。

医師をお探しの方へ

静岡県医師バンクでは、病院、診療所(承認を含みます)、介護施設等に医師をご紹介しています。無料でご利用いただける静岡県医師バンクへぜひ登録ください。

- 登録/紹介料金は一切かかりません。静岡県と静岡県医師会の運営するサイトでの申込にて利用いただけます。紹介に関する手数料等の費用はすべて無料。
- 事前面談の上、次面接とのマッチング機会を提供します。当バンクの医師が事務局と連携して、求人案件に合った就業先を紹介いたします。
- 求人情報は適宜更新が可能です。登録された求人情報については、随時「変更希望」の要請が可能です。

静岡県医師バンク運営事務局
Tel. 054-246-6151 [一時的な受付時間]
Email: dr-bank@shizuoka-med.or.jp

静岡県医師バンク専用サイト
<https://www.shizuoka-doctorbank.jp>

静岡県「静岡県ドクターバンク運営事業」

表4 静岡県医師バンクの実績（求人・求職登録と就業成立の状況）

求人・求職登録：令和3（2021）年1月開始、令和6（2024）年度は3月10日までの実績

区分	項目	内訳	～R3	R4	R5	R6 (～3/10)	計
求人	登録施設数 (各年度は新規登録数)	総数	45	25	21	32	123
		病院	27	9	5	4	45
		診療所	14	13	14	19	60
		介護施設等	4	3	2	9	18
求職	登録者数 (各年度は新規登録数)	総数	50	15	20	30	115
		県外	10	7	6	13	36
		県内	40	8	14	17	79
就業	成立件数	総数 (うち常勤)	5 (4)	5 (4)	4 (3)	3 (2)	17 (13)
		県外	1	3	2	2	8
		県内	4	2	2	1	9

〔具体的な取り組み〕

※ ふじのくに女性医師支援センターとの連携による病院長訪問（医師バンク事業の広報・利活用促進）

ふじのくに女性医師支援センターと連携して県内の病院を訪問しています。訪問では、医師バンク事業の運用状況を紹介し、医師確保に関する情報・意見交換を行うとともに、求人登録・登録後の情報更新を依頼しています。

※ 医師復職支援・キャリア支援プログラム紹介動画（公開中）

令和4（2022）年度から、勤務医に魅力のある勤務環境づくりに取り組む県内の病院を紹介する動画を作成し、静岡県医師バンクのホームページで公開しています。（毎年、東部・中部・西部で各1病院）

紹介動画は、施設紹介・管理者インタビュー・若手医師インタビューの3本柱で構成され、各病院の魅力が伝わる内容となっています。是非ご覧ください。

※ 診療所の医業承継支援に関する取り組み

全国的に診療所医師の高齢化や後継者不足が課題となっている中、令和6（2024）年3月21日に、静岡県医師会と静岡県医師信用組合、静岡銀行の三者が医療承継支援に向けた包括連携に関する協定を締結し、支援を希望される医療機関にタッグを組んで対応する体制を整えました。随時のご相談に対応するほか、今年度は「医業承継セミナー」（11/30開催）に合わせて個別相談会を開催するなど、きめ細かい対応に努めています。

また、令和6（2024）年度は、県内のすべての医科診療所を対象とした医業承継に関するアンケート調査（診療所調査）を実施し、診療所の医業承継に関する現状と課題の把握を行いました。また、郡市医師会や市町を対象に、医科診療所の承継に関する状況把握や各種事業への影響等についてもアンケート調査を行い、診療所調査と併せて、今後の支援策を検討することとしています。

○ ふじのくに女性医師支援センターとの連携（通年）

ふじのくに女性医師支援センター（以下、センター）は、女性医師のキャリア形成支援や就業相談等に対応するため、静岡県が浜松医科大学医学部附属病院に委託して設置され、復職に必要な子育て情報やキャリア形成に関する情報提供や相談対応（電話・メール）を行っています。

また、県内の医療機関と連携して、個々の事情に配慮した復職プログラムを作成しています。例えば、パートナーとともに家族で県外から転居した女性医師の場合では、キャリア継続のための就業や専門研修のプログラム変更など、きめ細かい対応が可能です。

これらのセンターの活動はホームページのほか、フェイスブックやインスタグラムで見ることができます。

静岡県医師会では、ご本人の同意を得て静岡県医師バンクにも登録いただくことにより、センターと連携して女性医師の復職を支援しています。

〔具体的な取り組み〕

※ ロールモデル講演会（9/25）・キャリア支援シンポジウム（1/31）

女性の就業率は、妊娠・出産等に伴い30～40代が落ち込む「M字カーブ」を描くことがよく知られています。医師ではその落ち込みが比較的少ないとされていますが、キャリアが中断する本人だけでなく、医療現場への影響も少なくありません。

静岡県医師会では、若手の先生方がこれからのキャリアプランやライフプランの参考となるよう、センターや浜松医科大学医学部附属病院との共催により、「ロールモデル講演会」、「キャリア支援シンポジウム」を毎年開催しています。いずれも、会場とオンラインによるハイブリッド形式で開催し、職場や家庭からも参加しやすい環境となっています。

このうち、「ロールモデル講演会」では、若手から中堅の先生方にご自身の仕事と家庭の状況をお話いただいた後、参加者も加わり、和気あいあいとした情報交換（本音トーク）が行われます。

また、「キャリア支援シンポジウム」では、診療・研究・教育の第一線で活躍されている先生方（特に女性医師）にご自身の歩みやライフワーク、地域医療への提言や期待などをお話いただき、若手の先生方へのエールとなっています。



これらの講演会やシンポジウムには、県内病院の管理職（医療職・事務職）や県内外の医学生・医師も参加するなど、ハイブリッド形式ならではのメリットが活かされています。

（3）医師の働き方改革関係：タスク・シフト/シェア推進支援事業

○ 静岡県の医療クラークを育てる会（7/28, 10/6, 2/9）

医師少数県である静岡県において、医師が作成する診断書や処方箋などの文書作成や検査予約などの事務作業を補佐するスタッフ（医師事務作業補助者；医療クラーク）を育成し、タスク・シフトを推進することは、医師の負担軽減だけでなく、所属する組織全体の効率的な運営やマンパワーの向上につながります。

静岡県医師会では、静岡県の医療クラークの資質向上や医療クラーク同士の連携を深めるため、本研修会を平成26（2014）年度から、毎年3回程度開催しています。開催方式は会場とオンラインによるハイブリッド形式で、休日でも参加しやすい環境を整えています。今年度は、日常の医師事務作業が災害発生時の迅速・的確な対応や医療DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進にもつながることから、これらをテーマにした研修会を開催し、多くの医師事務作業補助者や病院の管理部門の方々に参加いただいています。

以上、勤務医部のご紹介と今年度の取り組みのご報告でしたがいかがだったでしょうか。ご不明な点がございましたら、細かいことでも結構ですとお気軽に事務局までご連絡ください。これからも、勤務医部の運営にご理解とご協力をよろしく願います。

トピックス1 静岡県における女性医師の状況

令和4（2022）年の医師・歯科医師・薬剤師統計によれば、全国の医療施設に従事する医師のうち女性医師の占める割合は23.6%、本県では19.5%で、届出年（隔年）ごとにその比率は高くなっています。29歳以下に限ると、全国の女性医師比率は36.2%と全体よりもかなり高くなり、本県でも29.8%と約3割を占めています。また、年齢階級別の男女比は、診療科により大きな違いがあります。

トピックス2 育児・介護休業法の改正（令和7（2025）年4月施行）

令和3（2021）年の育児・介護休業法の改正では、男性・女性を問わず、育児休業や介護休業の取得促進が求められるなど、医師や医師を取り巻く勤務環境が大きく変化しました。しかしながら、医療人材の確保が困難な中、医療現場は十分キャッチアップできていないのが現状といえます。

昨年に、同法がさらに改正され、この4月からは、看護休暇の対象となる子の範囲や取得事由（理由）の拡大、所定外労働の制限（残業免除）の対象拡大など、育児期の柔軟な働き方を実現するための措置が拡充され、雇用者側には介護離職防止のための雇用環境整備、個別周知・意向確認の義務化などが求められることになりました。

最近の諸物価の上昇や賃上げなどで病院・診療所の経営が一層厳しくなる中、医師をはじめとする医療人材の確保はこれまで以上に厳しくなることが見込まれます。

トピックス3 オンラインによる日本医師会の会員情報管理システム

(MAMIS ; マミス)

日本医師会では、医師会への入会・異動・退会、登録情報の変更等をすべてオンラインで行うシステム（MAMIS ; マミス）を整備し、令和6（2024）年10月30日に公開しました。なお、紙ベースの運用は既に廃止されています。

会費無料で入会された研修医の先生方を含め、日本医師会会員の先生方はログインの上、利用者登録が必要です。昨年中に日本医師会から送付されたハガキに記載されたIDとパスワードからログインしてください。

【お問い合わせ先】

日本医師会 会員情報管理システム運営事務局

フリーダイヤル：0120-110-030

（平日 10:00～18:00、土・日・祝日、年末年始除く）

inquiry@mamis.med.or.jp

*お問い合わせ先：静岡県医師会地域医療課

電話：054-246-6151 E-mail：drsupport@jim.shizuoka.med.or.jp



日本医師会キャラクター
「日医君」（静岡県版）